

# 高校人事異動要領改訂 人事の停滞は教職員の責任ではない! 人事異動を促進する条件整備こそ必要!



北海道高教組札幌支部  
札幌市中央区大通西12丁目  
高等学校教職員センター3階  
TEL 011-271-5875  
FAX 011-271-5895  
https://koukyousosapporo.jimdo.com/

## 道教委の現状認識

都市部の学校には中堅職員やベテラン職員、再任者が集中しており、これらの職員が人事異動要領に沿った異動に感じないことにより、長年勤務者の解消が進まず人事の停滞を招いており、教職員構成にアンバランスが生じている。

昨年度9月に突然学校長より口頭説明された高校の人事異動要領改訂の動き、教職員にとつて重大な関心事を口頭でしか説明しない道教委のやり方には「教職員を信用していないのではないか」など批判が上がりました。それから半年、道教委は5月17日にやっと道高教組に対して質問意見を求めて説明を行いました。道教委の説明で見てきたことは、やはり「教職員を信用していない」ということです。右記の文章は道教委の説明文

書に記されたものです。ご覧になった皆さんはどのように感じられましたか。人事の停滞は異動に感じない教職員の責任だと、責任をなすりつける道教委の強圧的な言い分、腹の底から怒りが沸き上がる方も多いのではないかと感じます。これまで私たち教職員に何をしてくれたのか。17年間も賃金独自削減を強行してきた道教委がいまさら何を言っているのでしょうか。人事異動要領が依拠している「人事異動要綱」を確定するにあたって道教委と道高教組は「人事異動に関する確認書」(昭和53年10月31日)を交わし、「教育諸条件の整備、教職員の待遇改善など都市部と郡部間の地域格差の解消をはかるため、条件整備の年次計画を策定し、計画的に改善をすすめていく上で必要不可欠であることを確認していただきます。しかし、道教委はこの確認を誠実に履行せずに、年次計画はおろか待遇改善も満足に進みませんでした。条件整備を誠実に進めてこなかった道教委が、人事異動における最大の課題を放置し続けてきたことに蓋をして、教職員の責任のみを指摘する姿勢は改めさせなければなりません。

## 改訂案のポイント

今回道教委が計画している要領改訂のポイントは、大きく3点あります。1点目は道央以外の地域で勤務する教職員の異動の負担を軽減し、地域への定着を促進するための理由から、全道を6地域に分割し、2校目への異動は道央以外は初任校と同一地域内に縛るとともに、CD地区1校の勤務経験を3校目以降の他地域への異動の条件としたことです。すべての地域にA群を設定し、同一地域内ですべての群を経験できるようにすることで地域への定着を促進しようとしています。2点目は、基準勤務年数を短くして異動の頻度を上げて人事交流の活性化を図ろうとしている点です。3点目は、新設された特A群やA群に連続勤務年数の上限14年を設定し、特A群の場合は他地域のBCD群へ、A群の場合は同一地域を含めたBCD群へ異動する点です。都市部と郡部間の地域格差の解消をはかるための教育諸条件の整備、教職員の待遇改善などについてはもまったく触れていません。住居転居をとまなう広範囲にわたる異動を何度となく

| 地域区分                                  | 2020年4月当初の高校人事より適用                         |
|---------------------------------------|--|
| 道央(石狩、空知、後志) 道南(渡島、檜山)                |  |
| 日胆(日高、胆振) 道北(上川、留萌、宗谷)                |  |
| 道東(釧路、根室、十勝) オホーツク(網走、北見、紋別) の6区分に分ける |  |
| 基準                                    | 特A群・A群・B群…7年 C群…6年<br>D群…5年 特D群…3年 新採用者…4年 |

| 学 | A-特A 札幌・江別・千歳・恵庭・北広島・石狩   |
|---|---|
| 校 | B-A 岩見沢・苫小牧・帯広・北見(端野町、留<br>辺蘂町及び常呂町を除く)   |
| 群 | C-B 白老・東川・北見市端野・音更・芽室・幕別<br>D-C 厚真・訓子府・大空・士幌・鹿追・中標津<br>B-C 富良野・倶知安・洞爺湖<br>C-D むかわ町・穂別・松前・福島・上ノ国 |

強いられる北海道の教職員にとつては、一番肝心な点が抜けている改訂案と言わざるを得ません。改訂案の詳細は高教組速報でご確認ください。是非、意見・感想を道高教組へお寄せください。

# 猫の目増減反対!

## 公立高等学校配置計画案の改善を求めます!

2020年度から2022年度の公立高等学校配置計画案が6月4日に公表されました。石狩学区では中卒者の増加にあわせて5校で学級増を行う案が示されました。4月の地域別検討協議会では8、9学級の調整と説明されていたものが3、4学級少ない案となった背景には、私学からの公立学級削減圧力と欠員の多さが挙げられます。学級増となる4校(月寒、北陵、手稲、丘珠)はすでに2020年の学級減が示された高校です。年度ごとの増減は単年度ごとに計画案を策定していた

# 今年もやります!

**なつぷろ**  
先生達の学校祭

【ステージ企画】  
演劇〜5年後の学校  
・定時制生徒が語る  
・お楽しみ大抽選会 他

【わくわくブース】  
・ICTアイデア宝箱 他  
・街カフェ保健室 他

うまいもんDE 大交流会

昨年の様子はこちら

給食あり!

7月27日(土)  
本 祭 11:00~16:30  
交流会 17:00~20:30  
※交流会参加費 1,500円

北海道高等学校教職員センター  
(札幌市中央区大通西12丁目)  
主催: なつぷろ実行委員会  
連絡先: 011-231-0816  
MAIL: kokuyoso@do-kokuyoso.jp  
高教組は70周年を迎えます

## 地域別検討協議会は役割をはたせ!

また、2021年度をめざして検討が進められている札幌市内の高校と特別支援学校高等部の併設については4月26日に開催された地域別検討協議会でも説明はなされたが、協議会でも併設はありませんが、当該高校にあっては大きく教育条件が変更されます。地域別検討協議会「本道の公立高校を取り巻く課題とその対応方向」に対する意見を聴取するために開催しているものですから、併設問題も含めた見直し・計画を示さなければ開催した責任を果たしたとは言えません。

さらに、特別支援学校が抱える狭小化問題の解決は緊急性が高いことから、議論を急がなければなりません。インクルーシブな社会をめざすのであれば、社会全体で問題を共有し、解決に向けた議論ができる場を設け、解決への方向性を探ることが急務です。新設施設をつくらずに既存施設の転用・利用で事態を乗り切ろうとする道教委の姿勢は、経済効率優先で、教育の条理を切り捨てています。子どもの成長発達を保障する立場に立つ道教委を求めます。

★ せんせい ふやそうキャンペーン

一人ひとりが大切にされる教育を

ネット署名が始まる。カサシぎぎぎ!

★ せんせい ふやそうキャンペーン

スマホのバーコードリーダーをかざすと署名の画面につながります。

ネット署名に change.org ご賛同を!

せんせい ふやそう

闘争平和カンパ 70周年協賛金にご協力ください

毎年、夏の2回、「闘争平和カンパ」にご協力いただきます。誠にありがとうございます。今年度は道高教組結成70周年記念事業協賛金へのご協力を重ねてお願いいたします。

お寄せいただいた「カンパ」は、賃金闘争をはじめ生活権利を前進させる取り組み、原水禁世界大会への代表派遣などの憲法平和をまもるとりくみ・教育研究活動などに、10千円の「記

念事業協賛金」は、全教職員配布情報や北海道高等学校教職員センター改修・耐震化などに活用させていただきます。この間、私たちは道独自削減を終わらせ、5年連続の賃上げ、「割り振り変更業務」の拡大・学校閉庁日設定・超勤解消にむけた具体的な動きを道教委に着手させるなど要求を前進させる局面をつくりあげてきました。ひきつづき、人事異動要領の改訂、定年制延長の導入、学校配置や入試改変など、札幌・石狩圏の教職員の要求を前進させるために奮闘していきますので、ご支援ご協力をよろしくお願いたします。